

魅力発見
いぶすき日和
「花火と開聞岳とお月様」
撮影者：吉村 秀晃さん（鳥山）
撮影地：開聞山麓ふれあい公園

コメント
2016年に撮影した、かいもん夏祭りでの1枚です。
会場内から、開聞岳と打ち上げ花火を一掃に入れ
て撮影してみました。お月様も出ていて、とても神
秘的な写真になったと思います。



焦点距離：17mm/F:8
11秒/ISO:200



いぶすきまるごと博物館 vol.149

今和泉の「ばっばん」

明治10年2月に始まった西南戦争では、西郷隆盛率いる薩摩軍は約3万人、有栖川宮熾仁親王が、鹿児島県逆徒征討総督として指揮する政府軍は、約7万人が参戦しました。両軍合わせて1万3168人が亡くなったこの戦争で、県内の旧士族は薩摩軍また政府軍として従軍したため、親兄弟が敵味方、または隣人が敵となっていました。西郷隆盛の弟、小兵衛は薩摩軍に、従道は政府軍にそれぞれ従軍し、兄弟同士で戦いました。

約7カ月間の戦争中のことです。指宿市の今和泉では、夫や息子たちを見送り、自宅を守る「ばっばん」が、政府軍の従軍者宅を襲撃する事件が起きました。徒党を組んだ「ばっばん」たちが、2・3軒の家屋敷に押し入り、踏み荒らしたのです。

戦後、山川警視所に召喚されたのは、首謀者の疑いをかけられた女性4人でした。いずれも、白兵子帯に高下駄を履き、下駄音勇ましく踏み鳴らして出頭し、尋問の警察を手こずらせたそうです。

また、明治10年12月22日の『東京日日新聞』の記事には、今和泉の「老婆連」が首謀者となって、打ち壊し一揆を起こし、後に鹿児島県庁の取り調べを受けたことが掲載され、全国に報道されました。

さらに別の記事の、一揆を起こした今和泉に住む士族の妻ら16人の、取り調べ時の申し出によると「家に残りし父母妻子は扱も憎き



新聞錦絵 鹿児島戦記「西田橋で戦う女人隊」の一部（大武文庫蔵）

官軍かな、鹿児島島の敵は今の政府なり（略）」とあり、戦争で夫や息子たちを失った家族の心境がよく分かります。

西南戦争を描いた錦絵の中には、薩摩の女性たちが騎乗し、薙刀や日本刀を持った姿が勇ましく描かれています。新聞錦絵鹿児島戦記「西田橋で戦う女人隊」などの錦絵には、薩摩の女性が描かれています。実際に西郷軍に女性たちが参戦したわけではありませんが、今和泉の「ばっばん」や「老婆連」のような実話が、誇張されたものと考えられています。

時遊館COCOはしむれ内の「いぶすき西郷どん館」では、西南戦争を描いた錦絵や従軍者が使った銃や銃弾、笠や脚絆などが展示されています。ぜひご覧ください。

図 社会教育課文化係 ☎ 51100



燃ゆる感動かごしま国体 かごしま大会

「文化プログラム事業」募集

文化プログラム事業は、多くの県民が文化・芸術活動を行いながら「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」に参加し、両大会を盛り上げることと、鹿児島県の多彩な魅力を全国に発信することを目的として行われます。

両大会が開催される、2020年の1月1日から12月31日までに行われるイベントや展示などを「文化プログラム事業」として行うことにより、県全体で大会を作り上げることを目指しています。

民間団体などの取り組みも対象となります。既存のイベント・展示などを「文化プログラム事業」と位置付けて行うこともできます。

※補助金などの交付はありません。

詳しくは、かごしま国体・かごしま大会のホームページで確認してください。

図 国体・スポーツコンベンション推進室
(ふれあいプラザなのはな館内) ☎ 21014



国体
ホームページ